

## 巻頭言

## 腫瘍内科のご紹介です



<内科(腫瘍) 准教授 石田博雄>

2019年11月から腫瘍内科医として当院に赴任いたしました。

「腫瘍内科」という診療科は聞きなれない方も多いかと思います。がんの治療では手術、放射線治療、薬物治療が行われますが、腫瘍内科では薬物治療をおもに行います。以前はがんの薬物治療は抗がん剤を中心に行われていましたが、2000年以降は抗がん剤以外に分子標的薬が登場し、ここ数年で免疫治療も行われるようになりました。現在ではこれらを組み合わせた薬物治療も行われるようになってきています。

新しい薬の登場により治療効果は格段に良くなってきていますが、多種多様な副作用への対応も必要となり、これらの様々な薬物治療を効果的かつ安全に行うためには専門的な知識が求められるようになってきました。このような背景から、がん薬物治療の専門診療科として腫瘍内科が誕生しました。日本ではまだ歴史の浅い診療科ではありますが、がん薬物療法専門医の資格を持つ医師は全国で約1,400名(神奈川県78名)と徐々に腫瘍内科を専門とする医師は増えてきています。

当院では肺がんは呼吸器科、胃がんや大腸がんは消化器科といったように基本的には臓器ごとに薬物治療を行っておりますが、腫瘍内科では臓器に関わらずがんの薬物治療を行うのが最大の特徴です。当院の腫瘍内科では肉腫などの希少がん、原発不明がんなどを中心に診療を行っておりますが、合併症のため薬物治療が難しい患者さんや、副作用が強く薬物治療の継続が難しい患者さんに対しても他の診療科と協力しながら薬物治療のサポートを行ってまいります。また、がんによる痛みや、心のケアについては緩和医療科やメンタルケアセンターと協力しながら診療を行ってまいります。

がんの治療は医師だけで行うことはできず、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士などの医療スタッフとのチーム医療が欠かせません。当院では、患者さんを中心として、さまざまな職種のスタッフが各専門家からの視点で治療が円滑に進むよう、患者さんのサポートを行うことを心がけております。当院では各部門にがん治療の経験豊富なスタッフが揃っておりますので、治療に際して不安なことやお困りのことがあれば気軽にご相談いただければ幸いです。



- P1. 【巻頭言】腫瘍内科のご紹介です
- P2・3. 【医学講座コーナー】骨粗鬆症について
- P4. 【お知らせ】外来診察のWEB予約について
- P5. 【患者さんからのご意見・ご要望】
- P6. 【お知らせ】当院へのご支援の御礼  
【編集後記】

# 骨粗鬆症について

(整形外科 講師 大下優介)

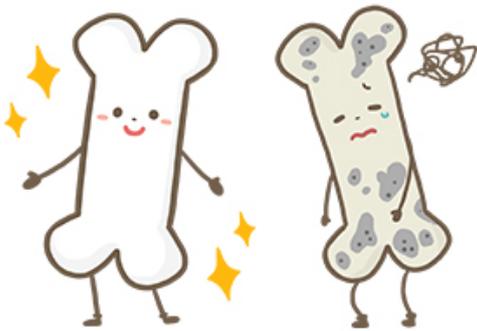


厚生労働省によると、2019年の本邦では要介護となる原因として認知症が24.3%、脳血管疾患（脳卒中）19.2%、骨折・転倒が12.0%であり、要支援となる原因として関節疾患18.9%、高齢による衰弱16.1%、骨折・転倒が14.2%と報告されています。高齢者人口の増加と共に介護が必要な高齢者も増加しております。

骨が脆弱な骨粗鬆症の対応は大切で、骨折を引き起こす要因となる転倒にも注意が必要となります。「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」によると、本邦では1,280万人(男性300万人、女性980万人)と非常に多くの患者数であると推察されています。当院に於いても多くの患者さんの治療を行っております。

骨粗鬆症の診断は検診などで指摘される方だけでなく、骨折を期に診断されることがあります。それぞれの患者さんの状態に応じて、内服や注射治療などをご案内しております。

当院には骨粗鬆症学会認定医が在籍しており、患者さんにあわせた対応治療方法をご提案させていただき、患者さんのご自宅近くの“かかりつけ医”にて継続した加療をおこなっていただいております。



現在の要介護度	第1位		第2位		第3位	
要支援者	関節疾患	18.9%	高齢による衰弱	16.1%	骨折・転倒	14.2%
要介護者	認知症	24.3%	脳血管疾患（脳卒中）	19.2%	骨折・転倒	12.0%

(厚生労働省ホームページより)

骨の脆弱性が影響する骨折は大腿骨の近位部、手関節部、脊椎に多く認められ、当院でも多くの患者さんの対応をさせていただいております。

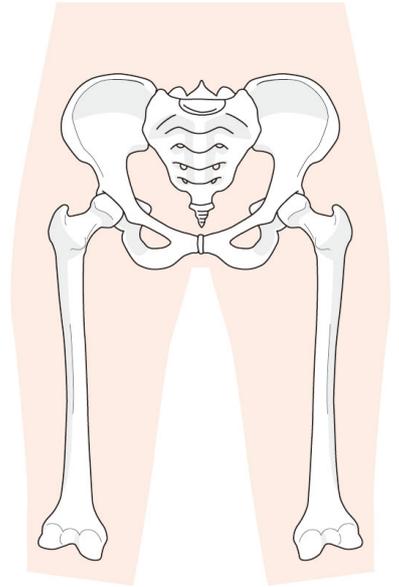


# 骨粗鬆症について

## だいたいこつ ～大腿骨の骨折～

大腿骨近位部の骨折は男女ともに80歳以上から増加します。多くは手術を要する状態となります。術後適切な手術を施行しても歩行能力は低下します。術後の歩行能力は受傷前の歩行能力に影響され、高齢、筋力、認知症の有無などが影響します。日本整形外科学会の調べでは、本邦で大腿骨近位部骨折後の1年後には約1割の方がお亡くなりになっております。多くは生活の拠点である自宅で転倒されており、骨折しないように転倒予防が大切であります。

当院には股関節手術を専門とする医師や、外傷手術を専門とする医師が在籍しております。できるだけ早期に手術対応を行い、リハビリテーションを専門とする病院への転院対応を行っております。



## しゅかんせつぶ ～手関節部の骨折～

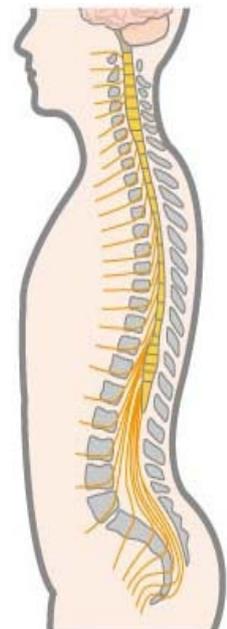
手関節部の骨折としては転倒時に手をついて骨折することが多く見受けられます。ギプス固定で対応できることもあります。整復が困難な方は手術を要します。多くは自宅退院が可能であり、通院しながら加療を継続することとなります。

当院には日本手外科学会認定の手外科専門医が在籍しており迅速な対応を行っております。

## せきつい ～脊椎の骨折～

脊椎の骨折は無症候性で患者さん自身が骨折していることに気が付かないこともあります。疼痛のため体動困難となり入院を要する方もいます。一般的な治療としてはコルセット装着・安静・鎮痛薬などがあります。当院では十分な保存加療によっても疼痛が改善されない方には、全身麻酔下に椎体内で風船を膨らませ骨折椎体を整復し骨セメントを重点する治療 (Balloon Kyphoplasty: BKP) も行っております。高度に椎体圧壊をきたし遅発性脊髄麻痺となれば脊椎除圧再建術が適応となることもあります。

当院には日本脊椎脊髄病学会認定の指導医が在籍しており、それぞれの患者さんにあわせた対応を行っております。



# 外来診察のWEB予約について

当院の外来診察はスマートフォンやPCからWEB予約ができます。

<スマートフォンでみた当院ホームページ>



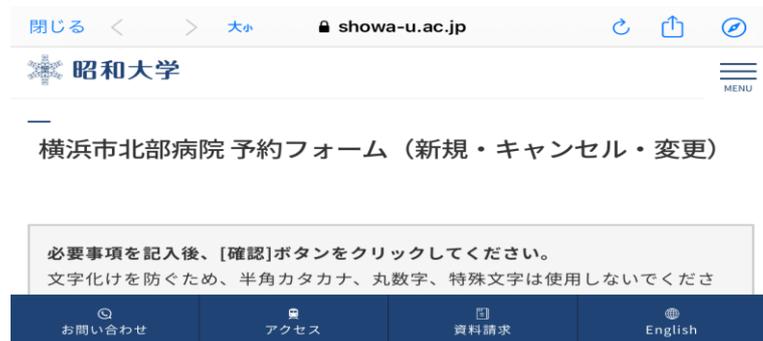
## 【WEB予約の対象となる方】

「紹介状をお持ちの初診患者さん」「再診患者さん」

## 【WEB予約の対象とならない方】

「紹介状をお持ちでない初診患者さん」

(紹介状がない初診WEB予約は取り消させていただきます。)



WEB予約フォームでは新規予約だけでなく、予約変更や予約のキャンセルも承れます。

※平日(月～金)の15時までにお受けした予約は、当日中に回答いたします。

(当院休診日に送信されたものについては、次の外来診療日のご回答となります。)

※WEB予約される方は、予約希望日を次の外来診療日の翌日以降にしてください。

(当日の予約はできません。)



<上記QRコードからもWEB予約フォームにアクセスできます。>

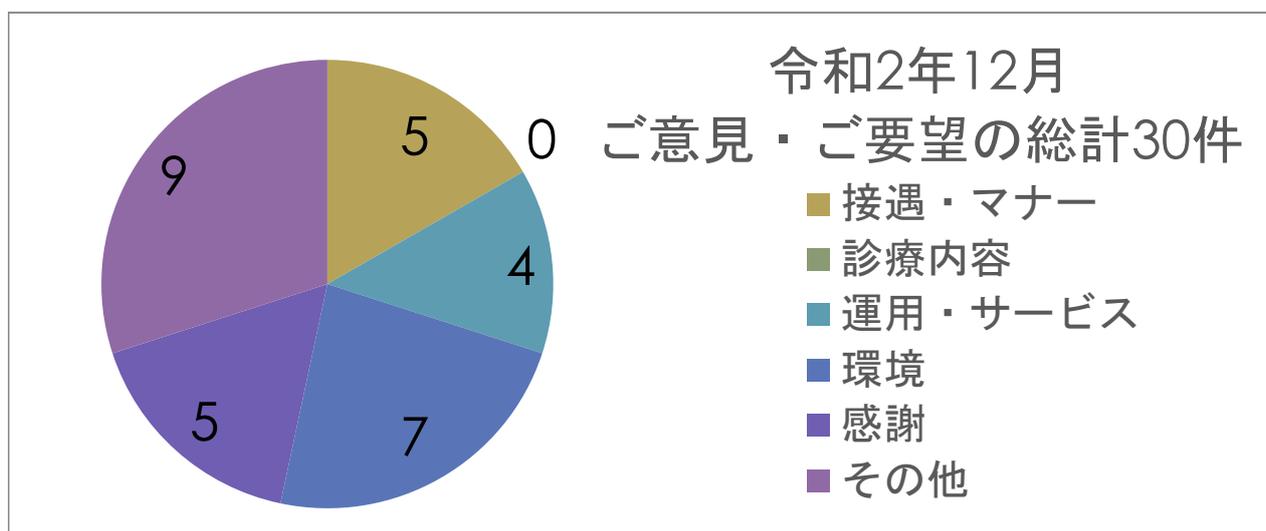
## 患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

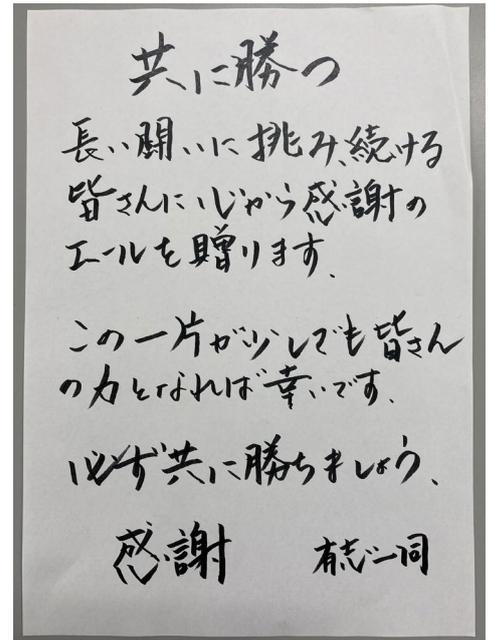
今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
Wi-Fi の設置を是非お願いします。	ご意見ありがとうございます。 Wi-Fi の設置について検討をしておりますが、設置期間を要するため、現時点で早急な設置は難しい状況です。 そのため、ご自身でモバイル Wi-Fi ルーター等をご準備いただきたく存じます。 ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。
車椅子がすべて使用中でとても困りました。 院内の台数が少なすぎます。 早急に増やしていただきたいです。	ご不便をおかけし申し訳ございません。 現在、車椅子を増台するよう準備を進めております。
駐車場にとめられず、時間ばかりくいます。 車椅子なので家族を降ろせる場所がありません。	現在、新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として中央棟駐車場を閉鎖しておりますが、そのため西棟駐車場が混雑する状況となっております。 ご不便をおかけし申し訳ございませんが、現状が改善されるまでの間、ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。 なお、お車での送迎を行う場合には、中央棟1階の車両入口から入り、中央棟地下1階の入口まで進んでいただきますと乗降スペースがございますので、そちらをご利用くださいますようお願い申し上げます。



## 当院へのご支援の御礼



引き続き多くの方から当院にご支援をいただいております。マスクやフェイスシールドをはじめ、飲食物のご寄付もいただいております。有志の方々からは、まだ温かさの残るお弁当をご寄付いただきました。当院へご支援くださった皆様へ、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。<http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

## 編集後記

寒さ厳しい2月ですが、暦の上では春、節分があります。旧暦では、2月4日前後の「立春」が1年の始まりとされており、立春の前日を「季節を分ける日」という意味の「節分」と称し、豆まきをして一年の穢れをはらい清める風習が生まれました。豆は「魔を滅する(まめ)」に通じ、無病息災を祈る意味があります。また、「また豆から芽が出ると縁起が悪い」と考えられていたため、炒った大豆を枡へ入れ神棚にお供えてから使っていました。

豆まきの後は、年の数だけ豆を食べると病気にならず、健康でいられるといわれていますが、年々年の数だけ豆を食べるのもひと苦労と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そのような場合は、飲めば食べるのと同じだけご利益があるといわれている「福茶」があります。福豆3粒に梅干しと塩昆布を加えて、お湯を注げば出来上がりですので、是非試してみてください。コロナウィルスなど健康を脅かすニュースが続いていますが、豆まきをして新しい一年を始めみてはいかがでしょうか。

(呼吸器センター 助教 田中洋子)



北部病院だより 第152号  
2021年2月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)  
編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)  
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1  
電話 045-949-7000(代表)  
URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>  
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。